

美濃加茂市域を中心とした「飛騨街道」

～平成28年度企画展「起点・飛騨街道」展に関連して～

可児光生
渡辺祐子

一般的に「飛騨街道」といわれる道はいくつかある。岐阜県美濃地方南部から飛騨(高山)へ向かう道のほか、富山(越中)から飛騨方面へ向かう道、中津川から加子母を經由して飛騨方面へ向かう道も「飛騨街道」と名が付けられている。つまり、飛騨(中でも高山)をめざす街道がそれぞれの地で通称として「飛騨街道」と呼ばれているのである。また、時代の移り変わりによって街道のルートが変わるとともに、その名称は使われなくなったり、新たに付けられたりしていく。

美濃地方南部と飛騨をつなぐ「飛騨街道」は、

①岐阜市(加納)から関を經由して飛騨金山へ向かうルート(「飛騨西街道」「金山街道」「岐阜街道」とも呼ばれる。)

②太田を起点に川辺を經由し、飛騨金山へ向かうルート(「飛騨東街道」「尾張街道」「名古屋街道」とも呼ばれる。)

③太田から飛騨川沿いに白川を經由して飛騨金山へ向かうルート(「飛騨南街道」とも呼ばれる。)などがあり飛騨へ向かう。

このうち②については、さらに次のように間見峠経由と上麻生経由の二つがある。

(A) 川辺石神～神坂～地藏峠～間見峠～神測(川辺・神坂から地藏峠を越え、中川浦から北上する。現在の県道97号線が一部重なる。)

(B) 川辺石神～下麻生～上麻生～神測(上麻生から神測川沿いに北上する。現在の県道64号線が重なる。)

この後、(A)と(B)は、神測・追分(現在の神測上中切)で、①の「飛騨西街道」と合流する。

今回の美濃加茂市民ミュージアムでの展覧会(2016年7月16日～8月28日)では、上記②ルートのうち、起点である太田から川辺あたりの区間(市域部分は「古井街道」「森山街道」とも呼ばれる。)を中心に紹介した。本稿では、明治初期に書かれた絵図などをもとに現地を踏査した結果を報告するものである。

【参考文献】

『岐阜県の地名』平凡社、1989年

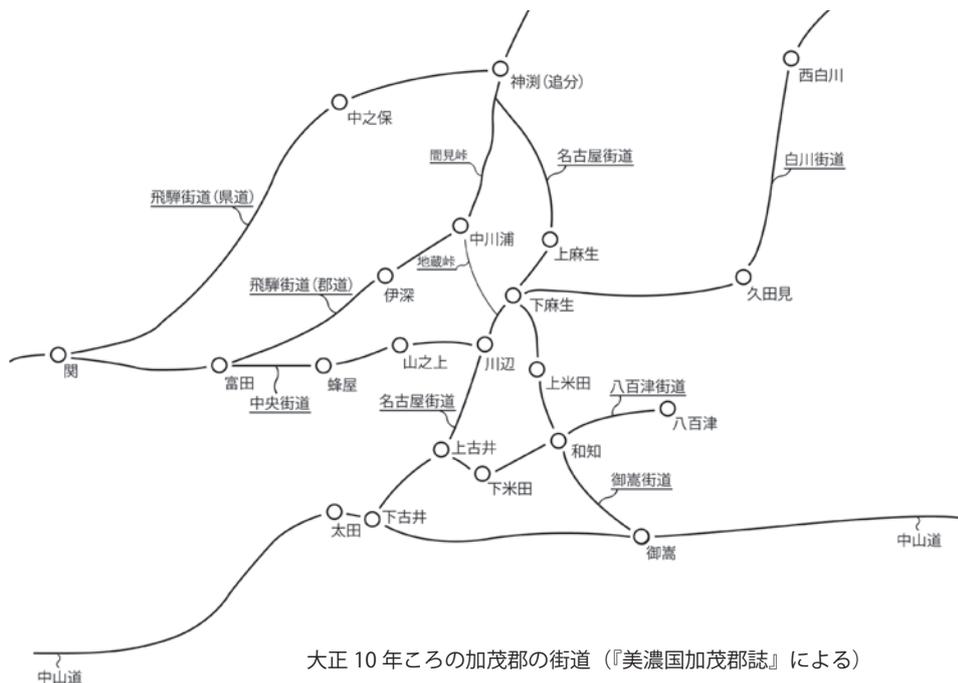
『歴史の道調査報告書 第四集 飛騨(南)街道ほか』

岐阜県教育委員会、1983年

『目で見る美濃・飛騨の街道』岐阜郷土出版社、1989年

松尾一『飛騨街道紀行』まつお出版、2003年

ほか岐阜県内各自治体史など



飛騨街道に関する動き(美濃加茂市域を中心に)

年	西暦	できごと	参考文献など	資料	写真
正徳元	1711	地蔵峠(美濃加茂・川浦と川辺・神坂の境)に地蔵菩薩が建てられる	⑨⑬		○
享保8	1723	川辺・神坂に「自是右ひだ道 左せき道」道標が建てられる	②⑬		○
享保15	1730	間見峠(美濃加茂・川浦と七宗・神淵の境)に地蔵菩薩が建てられる	⑨⑬		
宝暦11	1761	下古井に「右中山道 左飛騨街道 宝暦十一年」道標が建てられたとされる(所在不明)	⑧⑪		
天明元	1781	「川辺六か村絵図」が作成され、「飛騨街道」「麻生道」の記載あり	②		
文化4	1807	「中山道分間延絵図」に「飛州道」と記載がある	⑪	○	
文化15	1818	川辺・中組に「永代常夜燈」が建てられる	②⑪		○
文政11	1828	川辺・横町の分岐点に「右ひだ道 左かしおたかさわ道」の道標建てられる	②⑪		○
		川辺・天王町の分岐点(太部古天神社前)に「是より右あそ道 左ひだ道」の道標建てられる	⑪		○
弘化2	1845	川辺・西栃井の栃井神社に村瀬藤城の「木之根橋碑」建てられる	②⑬		○
明治10	1877	岐阜県内の主要街道を国道と県道に位置づける。「飛騨街道」(厚見郡蔵前村～大野郡高山村)[関経由]が県道第2号となった	⑩		
明治13	1880	七宗・中麻生に飛騨川を渡る報国橋が架けられる	⑬		
		七宗・神淵北部の「飛騨街道」(西街道部分)が改修され、荷車の通行が可能となる	⑤⑥		
明治14	1881	飛騨街道には西京から高山に通じる道と名古屋から高山に通じる道の二つあることの記述あり	⑤		
明治18	1885	飛騨街道・下古井～上古井～川辺間の改修完了する。愛宕山下の飛騨川断崖の掘削工事行われる	①⑫		
明治19	1886	七宗・神淵北部の「飛騨街道」「名古屋街道」(東街道部分)が改修され、荷車の通行が可能となる	⑤⑥		
明治24	1891	荷車の通行が増えて架橋の必要が高まり、上古井と下米田を渡る青柳橋(木橋吊り橋)が架けられる	①		
明治25	1892	美濃加茂・森山の分岐点に「右 か弥山八百津木曾路 左 川辺麻川飛騨高山」の道標建てられる	⑨		○
明治26	1893	美濃加茂・下古井の分岐点に「右 東京 善光寺 左 飛騨高山 八百津 麻生道」の道標建てられる	⑪		○
明治28	1895	通称「中街道」(関～蜂屋～山之上～中川辺)の改良着工	①		
		白川街道のうち下麻生から西白川までが開通する	⑬		
明治31	1898	白川街道のうち西白川から加子母までが開通、全線開通する	⑬		
明治32	1899	明治26年から着手した、加治田～三和～川浦～神淵 区間が改修完了。「修道之碑」(中川浦)建てられる	①⑫		次頁
明治44	1911	大日本帝国陸軍省参謀本部陸地測量部により五万分一地形図が作成される(市域分「太田」「金山」)。上麻生あたりと川辺あたりの道に「名古屋街道」と名称がふってある		○	
大正10	1921	『美濃国加茂郡誌』に飛騨街道、名古屋街道などの記載あり	③⑦	○	
		高山線太田駅開業	①		
大正11	1922	高山線下麻生まで開通。古井駅が開業する	①④		○
大正15	1926	高山線白川口駅開業	④		
昭和2	1927	青柳橋が木橋から鉄橋に架け替えられる	①		
		太田橋竣工	①		
昭和34	1959	昭和33年の道路新法に基づいて国道41号線が指定される。県道金山～太田線(美濃加茂市～七宗町間)、県道付知～太田線(七宗町～白川町河岐間)など6路線を連結	⑫		
昭和37	1962	国道41号・太田橋から森山町間が改良工事完了	⑭		○
昭和38	1963	国道41号・森山町から下麻生間が改良工事完了	⑫⑭		
昭和40	1965	国道41号が川辺町、七宗町内で改良工事完了	⑫		
昭和41	1966	国道41号 美濃加茂市と金山町間の改良工事完了	⑪		

昭和44	1969	国道41号名濃バイパス・中濃大橋が竣工 新青柳橋が新しく架橋	①⑫ ①		
昭和60	1985	七宗町・金山町境の袋坂トンネルが開通	⑤		
平成9	1997	青柳橋のすぐ上流に、青柳大橋(第3代)が竣工	⑭		
平成24	2012	国道41号美濃加茂バイパス(太田町～川辺町)が全線開通	⑭		

【参考文献】

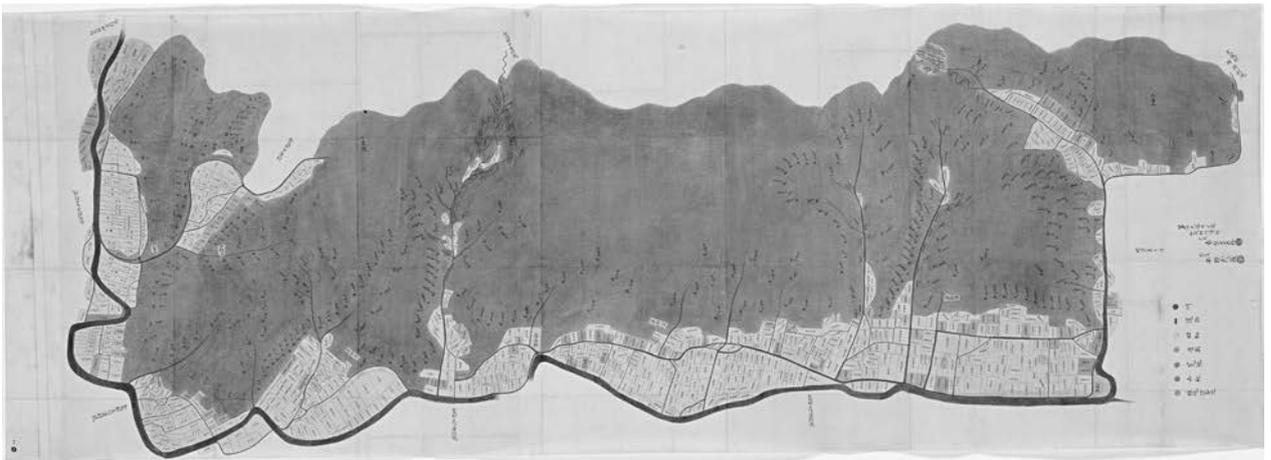
- ① 『美濃加茂市史 通史編』美濃加茂市、1980年
- ② 『川辺町史 史料編 上』川辺町、1984年
- ③ 『川辺町史 通史編』川辺町、1996年
- ④ 『白川町誌』白川町、1963年
- ⑤ 『七宗町史 通史編』七宗町、1993年
- ⑥ 『神淵村八十年史』神淵村教育委員会、1955年
- ⑦ 『美濃国加茂郡誌』加茂郡役所、1921年
- ⑧ 可児柗太郎『大古井』古井町役場、1933年
- ⑨ 『美濃加茂の石仏』美濃加茂市教育委員会社会教育課、1988年
- ⑩ 『岐阜県史 通史編 近代上』岐阜県、1967年
- ⑪ 『歴史の道調査報告書 第四集 飛驒(南)街道ほか』岐阜県教育委員会、1983年
- ⑫ 岐阜県土木部『岐阜県道路史』財団法人岐阜県建設技術センター、1992年
- ⑬ 吉岡勲監修『目で見える美濃・飛驒の街道』岐阜郷土出版社、1989年
- ⑭ 「広報美濃加茂」



「修道之碑」明治32年（1899）2月建立

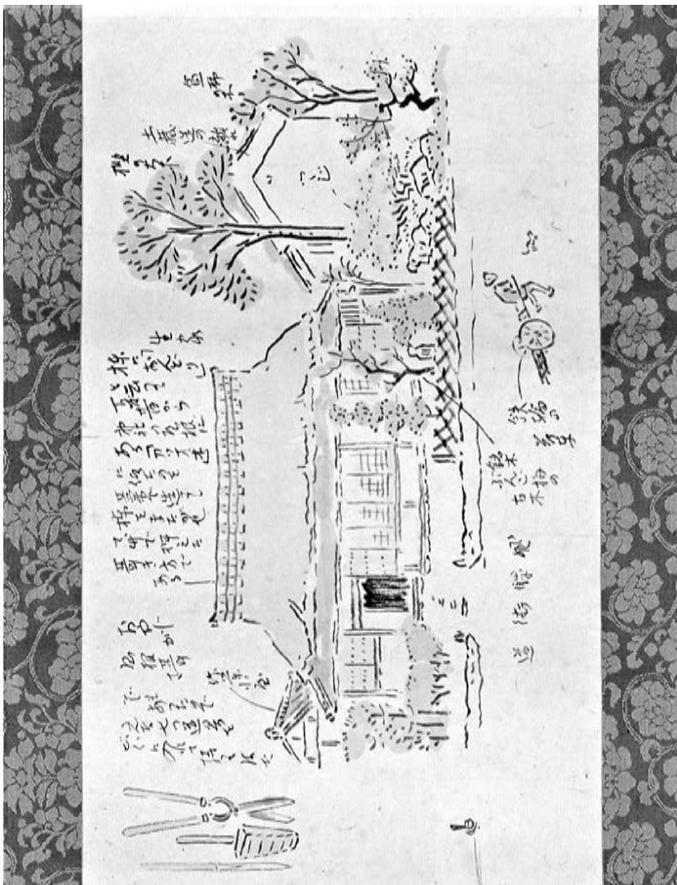


「地籍図 第十大区十二ノ小区 加茂郡上古井村」(年代未詳、館蔵 H11005)

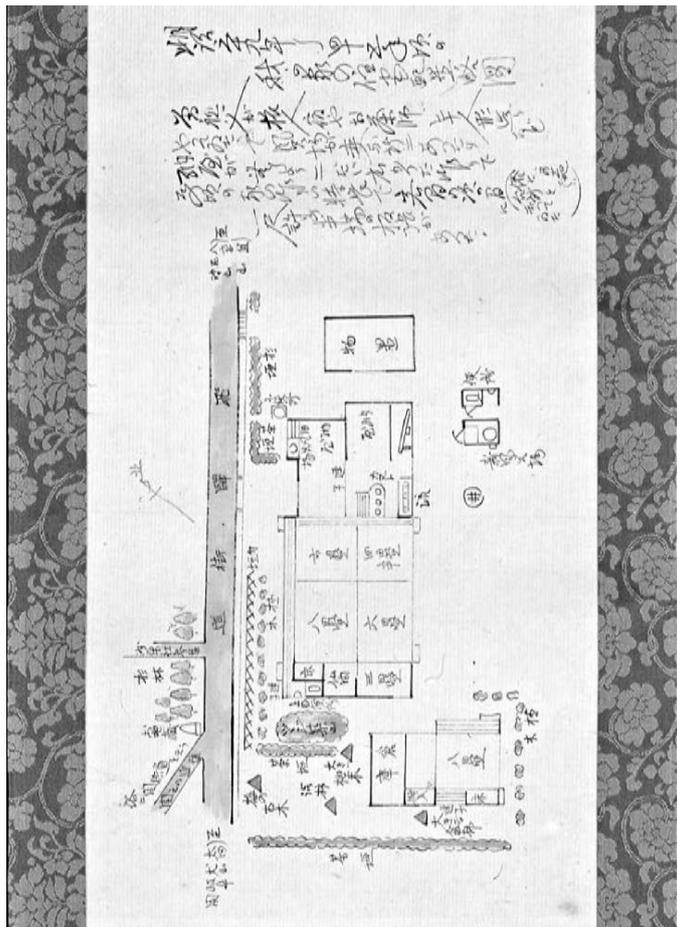


「地籍図 第十大区七ノ小区 加茂郡川浦村」(明治6年(1873)10月、館蔵 H11034)

「高橋余一画生活絵巻」2巻(部分)美濃加茂市指定有形文化財 寄託資料 明治・大正・昭和時代
 飛騨街道沿いの南に面していた自宅を描いていた自宅を描いており、当時の街道の様子が記録されている。



牛家
 棟に「おんどり」と言つて
 丁度昔から神社の屋根にある「カツ木」に似たのを
 藁で造つて棟をまたがせて、竹で押えた
 葺き方である
 おやじが屋根葺きでもあったのでこんな七つ道具をばぐに入れて持つて居た



明治三十九年〜四十五年頃の我が家の住宅配置略図
 曾祖父が旅人宿やお茶師、ヒナ人形造りなどやつてゐたので風呂標榜が寝在所にあつたり納屋が無しようにだゞ広がつた作りでその頃の家の作りの特長で客間の次の間に一尺許りの半端の板張があつた。(俗にこの土地では台所と言つてゐた)

「飛騨街道」調査記録

今回の展覧会を機に、明治期の美濃加茂を通る飛騨街道を調査した。地籍図（館蔵、P37参照）や「美濃国実測図」（明治8～12年（1875～1879）、岐阜県図書館蔵、291.38ミ）といった絵図と今までの報告書等を参考に辿った。道路の拡張整備が行われた結果、その姿は大きく変わりがながらも、今でも石仏や道標が確認できる箇所があり、当時の往来の名残りとどめていた。

調査の際、撮影した写真とともに振り返る（実施期間：平成28年（2016）2月～平成29年（2017）3月）。

I 【美濃加茂市古井町下古井から森山町まで】

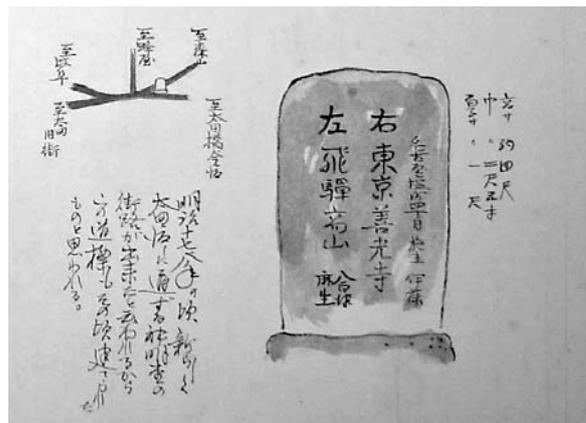


国道21号線から北東へ入る。写真左側の道。
[地図①]



神明堂交差点付近にある道標「右 東京善光寺 左 飛騨高山 八百津 麻生 道」明治26年（1893）建て

る。所在地は美濃加茂市古井町下古井。『美濃加茂の石仏』p54[B 160] 施主は名古屋の伊藤萬蔵（1833～1927）。萬蔵は尾張藩平島村（現愛知県一宮市平島）で生まれ、名古屋の米の仲買商の丁稚から、やがて金融業等で財をなした人物。生涯に多くの石造物を社寺に寄進した。道標の類も多い。



「高橋余一画生活絵巻」20巻にこの道標が描かれている。「生活絵巻」は、明治期から昭和期にかけて加茂郡古井村（大正13年（1924）からは古井町、現美濃加茂市本郷町、古井町下古井ほか）に暮らした人々の日常を描いたもので、当時を知る記録でもある。



さらに斜め左へ進む。[地図②]



突き当たりを右へ曲がる。この辺りは住宅街が広がる。[地図③]



道沿いにある「中富町名史碑」(昭和43年(1968)建立)。所在地は美濃加茂市中富町 [地図④]



人々の往来を見守った馬頭観音。所在地は中富町

の「中富町名史碑」の北側。[地図⑤]

光背部分に「□□をた道 左か□べ道」とある。
『美濃加茂の石仏』p50[B 123] 大正13年に飛騨街道にあったとされる。



「中富町名史碑」を過ぎて、左(北東)へ曲がる。[地図⑥]



川原石である玉石で囲った畑の横を進む。道は、真っすぐに舗装した箇所もあるが、緩やかに曲がっているところもあり、かつての道を想像させる。[地図⑦]



やがて古井神社の参道に入っていく。『ふるさと清水』によると、「右川合 左川辺」とある道標があったという。写真の消火ホース格納箱辺りに建っていたと思われる。[地図 8]



県職員住宅付近。[地図 11] 東へ向かう。このあたりの飛驒街道は地名にちなんで「古井街道」や「森山街道」と親しみを込めて呼ばれている。明治期の飛驒街道は、この辺りからやや南を通っていたと考えられ、道を東南へ入り調査した。しかしながら、現在では新しく住宅が建ち並び、かつての名残りはあまりない。



古井神社参道。つきあたり神社沿いに右(東)へ進む。[地図 9]



道路下に水路が通っている箇所があり、この水路沿いに飛驒街道があったと思われる。[地図 12]



旧市学校給食センターの横を通り、国道248号の高架をくぐる。[地図 10]



東へ進む。市立東図書館を過ぎ、まっすぐ美濃加茂市森山町まで進む。[地図 13]

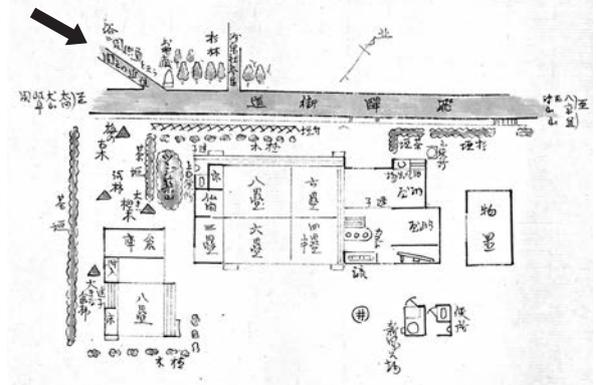


現在、禅隆寺(美濃加茂市本郷町)に移されている道標。「右川合 左川^辺道」年不詳。『美濃加茂の石仏』p 39[B 36] もとは川辺方面へ向かう道と、南下して川合村(現美濃加茂市川合町)へ向かう道の分岐にあったと推定される。飛騨街道沿いなのか関街道沿いなのか、どちらの分岐にあったのかは不明である。川合村は飛騨川に面した村で、対岸の小山村(現同市小山)とともに、舟運が盛んだった。



写真矢印の道は、かつて「関街道」と呼ばれた道。

現在では、美濃加茂市山手町方面のショートカットになっており、撮影時には中学生の帰宅する自転車がひっきりなしに通っていた。[地図 14]



『生活絵巻』2巻に、この関街道が描かれる。



JR 古井駅あたりの古井商店街。東へ進む。[地図 15]



森山町に残る道標「右 か拵山 八百津 木曾路 左川辺 麻川 飛騨高山 道」明治25年(1892)建立。『美濃加茂の石仏』p 51[B 133] かつて別の場所に移されたが、有志によりもとのこの場所に戻された。左の道が飛騨街道。[地図 16]



森山町（森山クラブ協）に残る弘法大師像。側面に「右 太田 左 川合」とある。『美濃加茂の石仏』p 42[B 60] 大正4年（1915）建立。



300メートルほど進んだ左（西）の山の中腹にある岩穴観世音菩薩。岩は蜂屋凝灰角礫岩。[地図 18]



道沿いにある石柱。

II 【川辺町下川辺から中川^{たべこ}辺太部古天神社まで】



愛宕山を過ぎたあたり。『大古井』によると「白山神社大門より山を越えて、下川邊の森山に入り…」とある。この道は、明治18年（1885）までの掘削工事で開かれた。川辺町方面へ入り、国道41号を北へ進む。[地図 17]



国道41号沿いの商店「おだまきや」は、かつて飛騨街道を行き交う人たちが立ち寄る茶屋としてにぎわった。[地図 19]



「おだまきや」を過ぎ、おんどりがわ雄鳥川を渡り、北東よりに進む。[地図 20]



街道沿いにある永代常夜燈。所在地は川辺町下川辺。「金毘羅大権現 十方施主講中 村中安全 文化十五年寅三月建」文化15年(1818)建立。
[地図 22]



東海環状自動車道の高架をくぐって進む。[地図 21]
道沿いには下川辺公民館が右手にある。川辺町を
通っていた飛騨街道は、現在の国道41号線の東側
を通っていた。



下川辺地区の八幡神社の社が見える。[地図 23]





禅原寺(川辺町西栃井)の辻で、左へ曲がり、北へ進む。現在はスクールゾーンが設けられている。

[地図 24]



街道沿いの津島神社(川辺町中川辺)。[地図 26]
 ここには明和5年(1768)に村の人たちで建てた石灯籠が残る。津島神社を過ぎて200メートルほど行った四ツ辻を左へ曲がる。北へ進む。



栃井神社(川辺町西栃井)を右に見ながら、進む。

[地図 25]



写真やや左の道路標識のところに道標があった。

[地図 27]



神社には、以前「木の根橋」という橋があった。街道と神社の間に流れていた能田川に、杉の根が張り出して橋となったもの。平成13年(2001)に道路拡張のため、橋はなくなったが、今でも手水場の上にその一部が残されている。



「みぎ 加治田 ひだり 伊勢名古屋 道」。年不明。富加町加治田へ抜ける道で、関方面を結ぶ中央街道と飛驒街道の分岐、飛驒街道の南西側に建っていた。飛驒方面から来た人たちのために建てられたと思われる。撮影時(平成28年5月20日)には自動車事故のため、倒れた状態でフェンス横に置かれていた(現在は別の場所へ移動)。



中川辺地区の商店街、メインストリートを北へ進む。
[地図 28]



大垣共立銀行の辻を右へ曲がり、東へ向かう。
[地図 29]



大垣共立銀行脇にある道祖神の石碑。



真ん中の「道祖神」という文字の両横に「右 ひた道
左 か志を たかさわ道」とあり、裏に「文政十一
歳 上組」とある。文政11年は1828年。



50メートルほど進み、さらに左へ入る。北へ向かう。[地図 30]

「あそう道」と呼ばれた。左へ進み北上、川辺町石神地区へ進む。[地図 32]



太部古天神社にのこる道標。「是より 右 あそう道 左 ひだ海道」文政11年(1828)建立。



まっすぐ進む。太部古天神社(川辺町中川辺)が見える。[地図 31]

Ⅲ【川辺町石神から地藏峠、間見峠へ】



川辺町石神地区から神坂地区(西北)へ向かうと、やがて分岐に道標がある。右(北)へ進むとやがて地藏峠にさしかかる。美濃加茂市三和町へ入り、そのち七宗町との境の間見峠へと向かう。

[地図 33]



神社手前で道が分岐するが、左が飛騨街道、右は



分岐にある道標「自是 右 ひだ道 左 せき道」享保8年(1723)とある。

元年(1711) 9月の建立。『美濃加茂の石仏』p148[G103]。この先、県道97号線に出る。右へ曲がり、川浦川沿いに北東方面に進みさらに北上、間見峠へ向かう。



間見峠へ向かう道にある道標。「是□ みき さくば □ 古れよ里ひだりなこやみち」年不詳。『美濃加茂の石仏』p151[G123]。所在地は三和町川浦。飛騨方面から名古屋へ向かう人たちのために建てられた。川浦集落に入る分岐にあった可能性がある。飛騨街道であるこの道は、名古屋まで通ずる主要な街道としても認識されていたことを物語る。

[地図 35]



地藏峠。三和町川浦地区と川辺町を結ぶ。北側から撮影。[地図 34]



道沿いに残る弘法大師(嘉永2年(1849))、廻国供養塔(聖観音、安永3年(1774))、馬頭観音(文字碑、天保2年(1831))。『美濃加茂の石仏』p151[G125,G126,G127] 所在地は三和町川浦。

[地図 36]



祀られている地藏。刻まれた銘文から、正徳



川浦川沿いのかつての飛騨街道。奥に若宮八幡神社が見える [地図 37]

川浦川沿いに北上する。県道97号線と並行して、西側にかつての飛騨街道が残る。[地図 39]



街道沿いに残る石仏4体。左から「庚申塔(文字碑)」(年不詳)「地藏菩薩」3体(文化15年(1818)、享保20年(1735)、安永8年(1779))。『美濃加茂の石仏』P152[G132,G133,G134,G135]所在地は三和町川浦。[地図 40]



川浦川沿いにある若宮八幡神社(三和町川浦)。[地図 38]川浦川はここで北から西南へ方向を変えて流れていく。明治6年(1873)の地籍図(P37参照)では、川浦川の右岸に描かれるが、現在は左岸にある。



間見峠。美濃加茂市三和町と七宗町神湊地区を結ぶ。[地図 41]





間見峠の地蔵菩薩。『美濃加茂の石仏』P53[G142]
「享保十五□六月吉日」とある。享保15年は1730年。

現在の川辺町神坂地区から間見峠までの道は、整備された車道であり、かつての飛騨街道のルートと同じかどうかはわからない。街道の面影はあまり感じられない道のりではあるが、地蔵峠のあたりは山を切り開いて道を通した「切通し」の風情が残っている。

【調査協力者】

桜井つぎえ、鈴木春海、日比野宅男、前島正秀、吉田紀彦、
渡辺司正、古井商工発展会、川辺町教育委員会
(順不同 敬称略)

【調査記録の参考文献】

可見榎太郎 『大古井』 古井町役場、1933年
『歴史の道調査報告書 第四集 飛騨(南)街道ほか』
岐阜県教育委員会、1983年
『ふるさと清水』 ふるさと清水編集委員会 清和会、1985年
『美濃加茂の石仏』 美濃加茂市教育委員会、1988年
『川辺町の文化財 石造物編』 川辺町史編纂室、1979年
『高橋余一生活絵巻上、中、下』 株式会社国書刊行会、
1990年

【開催した講座】

①「川辺のみちを歩く」

平成28年(2016) 7月24日開催



～川辺町 太部古天神社～

②「森山町を訪ねて」

平成28年(2016) 7月31日開催



～美濃加茂市森山町の飛騨街道～

③「起点から古井神社まで」

平成29年(2017) 3月25日開催

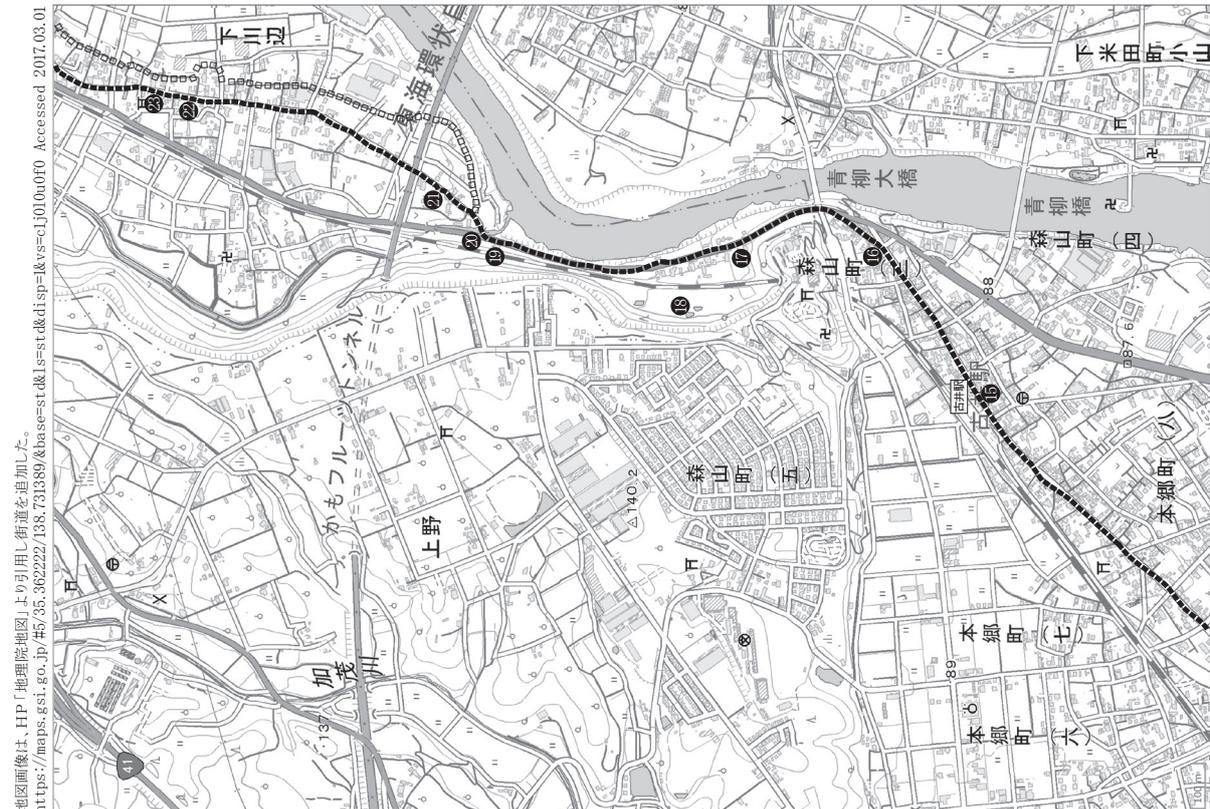


～中富町の馬頭観音～



地図 ①～⑭

..... 明治前期の飛騨街道 (細線.....は推定)

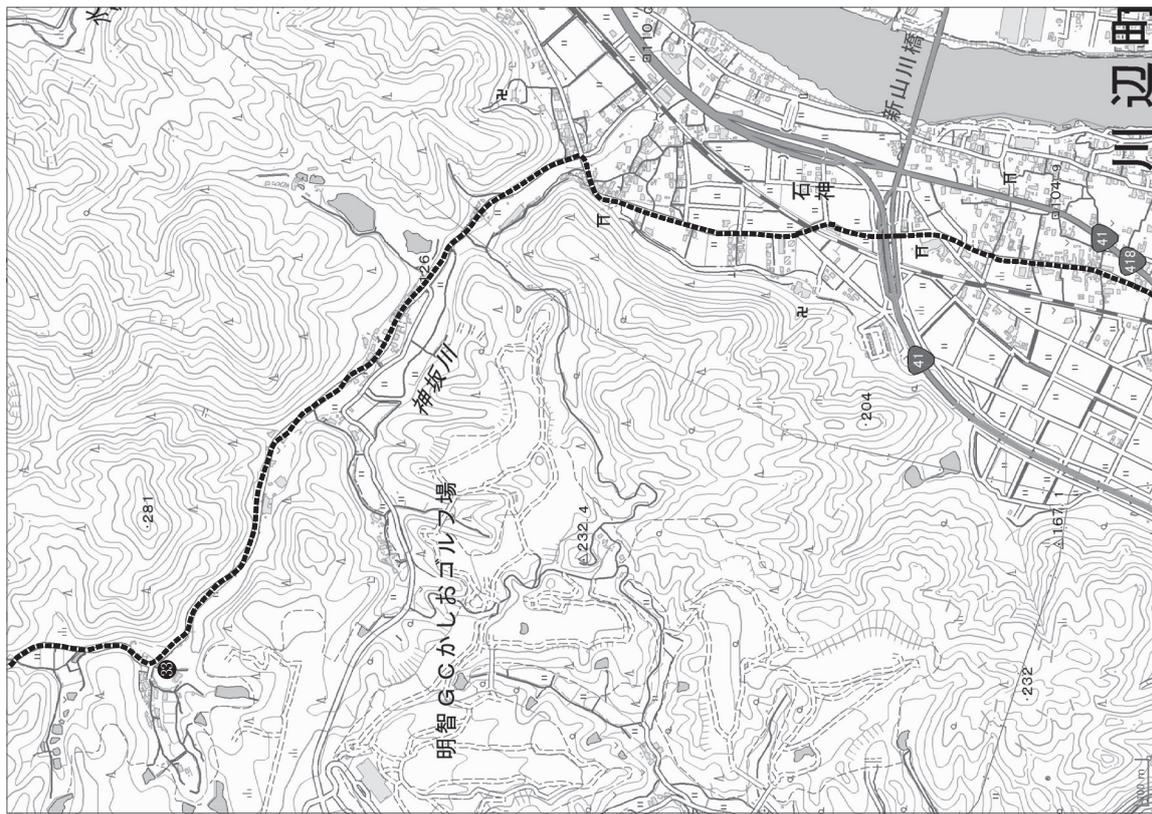


地図画像は、HP「地理院地図」より引用し街道を追加した。https://maps.gsi.go.jp/#5/35.36222/138.731389/&base=std&ls=std&disp=l&vs=c1j010u0f0 Accessed 2017.03.01

..... 明治前期の飛騨街道 (細線.....は推定)
oooo 明治前期以前の飛騨街道(推定)

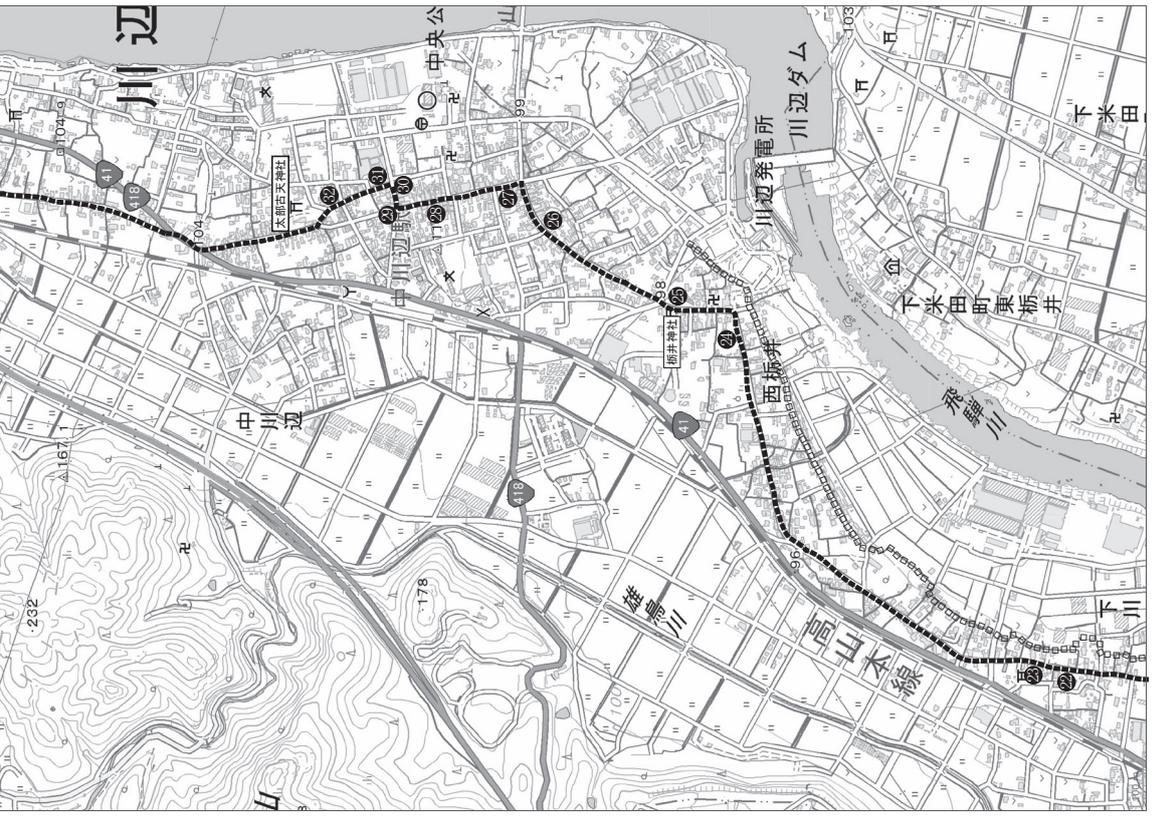
地図 ⑮～㉓

地図画像は、HP「地理院地図」より引用し街道を追加した。
<https://maps.gsi.go.jp/#5/35.362222/138.731389&base=std&ls=std&dis=1&vs=cj010u0f0> Accessed 2017.03.01



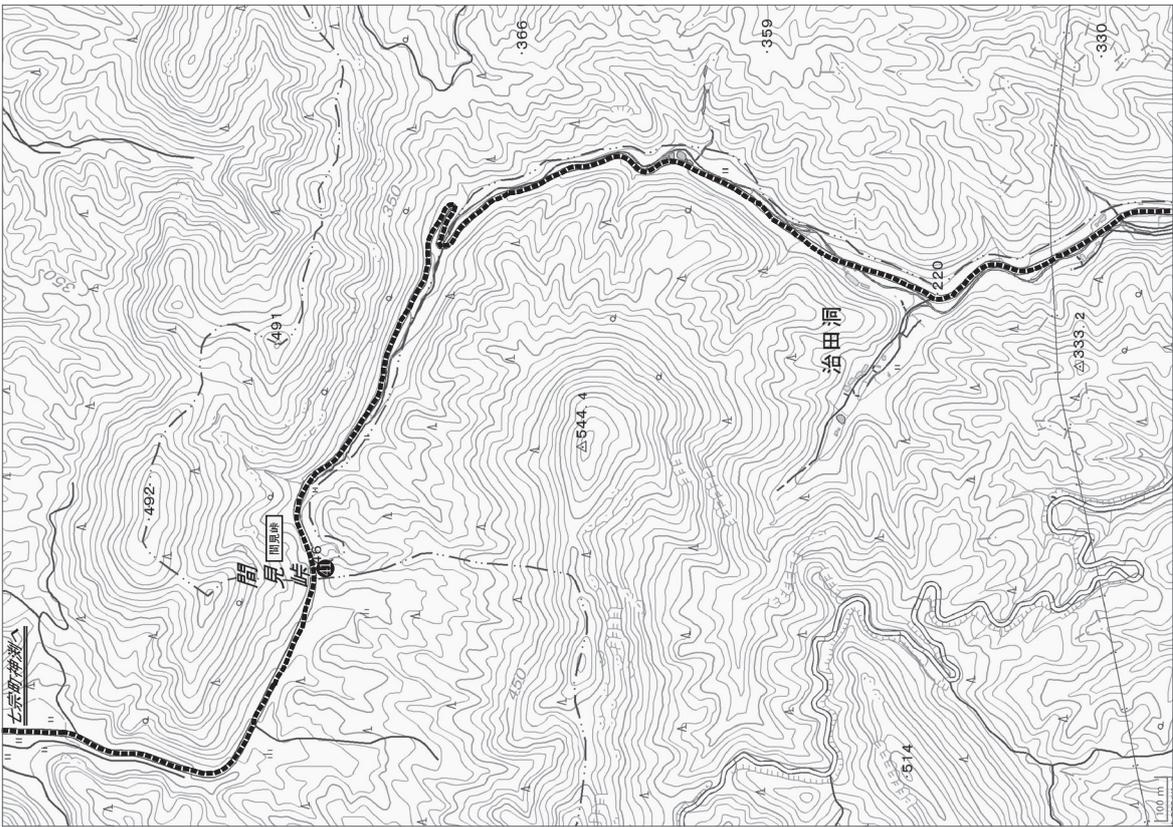
..... 明治前期の飛騨街道 (細線.....は推定)
 地図 63

地図画像は、HP「地理院地図」より引用し街道を追加した。
<https://maps.gsi.go.jp/#5/35.362222/138.731389&base=std&ls=std&dis=1&vs=cj010u0f0> Accessed 2017.03.01



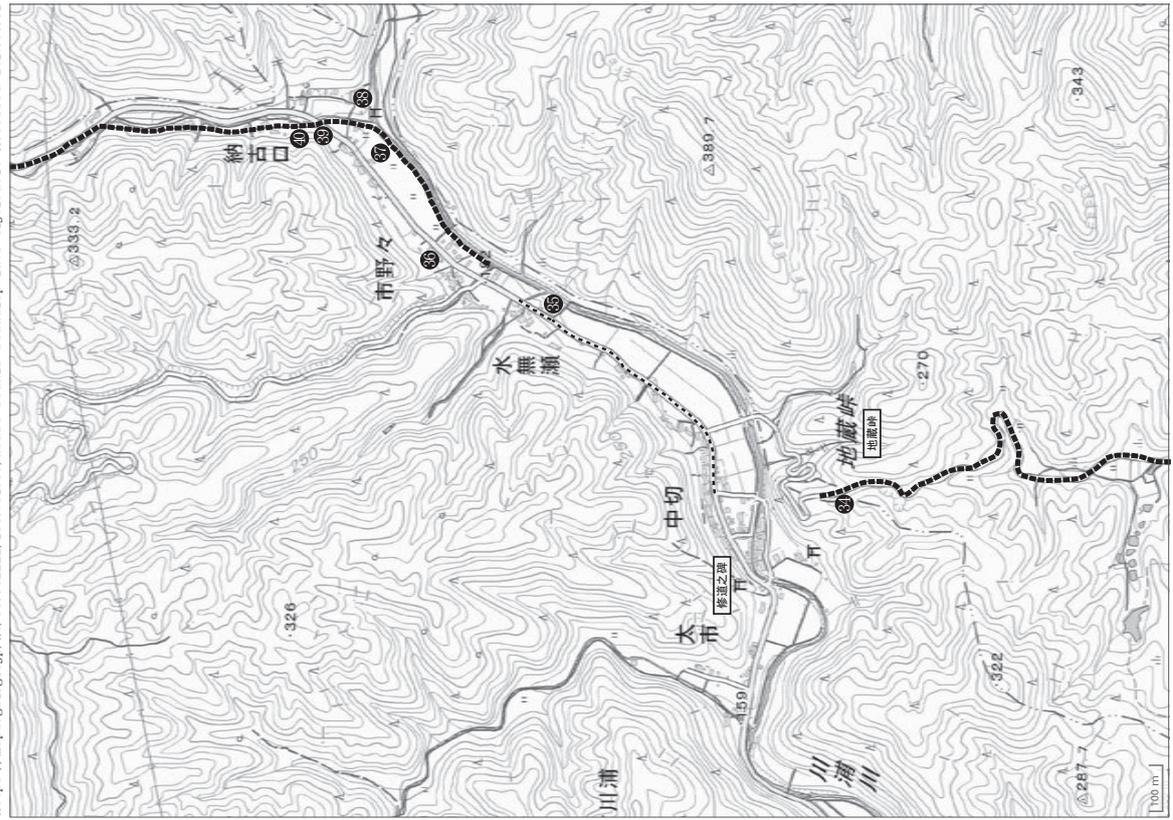
..... 明治前期の飛騨街道 (細線.....は推定)
 地図 62

地図画像は、HP「地理院地図」より引用し街道を追加した。
<https://maps.gsi.go.jp/45/35/362222/138.731389/kbase=std&l=std&i.sp=1&vs=c1j0100070> Accessed 2017.03.01



地図 ① 明治前期の飛騨街道(細線・.....は推定)

地図画像は、HP「地理院地図」より引用し街道を追加した。
<https://maps.gsi.go.jp/45/35/362222/138.731389/kbase=std&l=std&i.sp=1&vs=c1j0100070> Accessed 2017.03.01



地図 ② 明治前期の飛騨街道(細線・.....は推定)